

高知精神保健

発行所 高知市丸の内1丁目2-20
高知県健康福祉部障害保健福祉課内
高知県精神保健福祉協会
電話：088(823)1111・088(823)9669(直)
FAX：088(823)9260
E-mail：kochi-mhwa@s2.dion.ne.jp
発行人 井上 新平 編集人 谷 晃

第238号

◎第48回高知県精神保健福祉大会開催にあたって

「学校は、いま。」

大会実行委員長 安岡 照道

子どもの命や心に関わる事件や事故が、途切れることなく私たちに伝えられてきます。いじめ、不登校、ひきこもり、家庭内暴力、非行、発達障害など主として学校現場をめぐるさまざまな事例が増えています。最近では携帯電話サイトの「裏学校」の存在など大人世代には理解できない新しい問題も現われています。高知県内でもいたましい児童虐待事件や自殺など、児童・思春期の精神保健の問題が起こっています。子どもの近くにいる親と学校の先生だけでは解決できない問題も多いことでしょう。さまざまな専門家や機関が連携して、子どもが育っていく地域社会の問題として取り組んでいく必要があります。

幼稚保育・小中学校・高校と進む学校生活は、家庭から社会へ育つ中でたくさんの人とさまざまな問題に出会う場でもあります。今回の高知県精神保健福祉大会では、学校精神保健の問題を中心にプログラムを組みました。講演には、高名な児童精神科医である関西国際大学教授の清水将之先生をお招きしました。先生は長年、学校精神保健の分野で活躍してこられました。今回の講演でも先生の経験に裏打ちされた貴重なお話をお聞きできることと期待しています。

またシンポジウムには、前高知県教育長の大崎博

澄氏、高知県臨床心理士会事務局長の池雅之氏、高知大学保健管理センター医学部分室准教授の澁谷恵子氏をお迎えしています。高知県内で教育界や児童思春期の分野で活躍されてきた方々です。それぞれの立場で学校の抱える問題について論じていただき、これからの学校のあり方・地域社会のあり方について考えていければと思います。

全体でわずかな時間ではありますが、この大会をととして児童思春期や学校精神保健について問題意識をふかめられればと願っています。

(詳細はP6)



目次

第48回高知県精神保健福祉大会にあたって	1
平成20年度自殺予防シンポジウムin高知 基調講演	2
パネルディスカッション	3

高知いのちの電話協会・「自死遺族の集い」のご案内	4
参考図書・参考HP	4
発達支援部の活動とセミナーのご案内	4
第48回高知県精神保健福祉大会「学校は、いま。」	6

平成20年度自殺予防シンポジウムin高知



高知県・厚生労働省・内閣府主催による標記シンポジウムが、平成20年9月20日(土)高知新阪急ホテルで開催され250名近い参加者がありました。開会あいさつで尾崎知事は自殺についての高知県の状況と、原因となるうつ病についての啓発、多重債務問題などへの相談、「自死遺族の集い」などの取り組みを説明しました。

シンポジウムでは基調講演の後、自死遺族の体験発表があり、パネルディスカッションでは県内で自殺に関係する場面で活動する「生きるを支える」立場からの発表がありました。

基調講演

「自殺、そして遺された人々」

講師 防衛医科大学校教授 高橋 祥友氏

いま日本では、年間自殺者数が3万人を超え、交通事故死者数の5.8倍という大きさになっている。未遂者はその10倍いると推定される一方、自殺をする人の周りにはそのことで心に傷を負う家族・友人・同僚がその何倍もあり、死にゆく人だけの問題ではなく、遺された多くの人々にも影響を及ぼす深刻な問題。

自殺予防には、①プリベンション(未然予防)、②インターベンション(危機介入)、③ポストベンション(遺された人へのケア)の3段階がある。アメリカの自殺予防学会には、医療や心理の専門家だけでなく法曹関係者、教育関係者、聖職者など多分野の職種、さらに自殺で家族を失った遺族や友人なども参加している。彼らは自助グループを立ち上げ、大切な人をなくした人(サバイバー)を支援する活動を展開している。

自殺されて遺された人のところには、複雑な感情が一気にこみ上げてきて、自殺を防ぐことができなかつたと自分を責めるなどして、それがうつや不安障害、PTSDあるいはアルコール依存などころの病気が果ては体の変調をきたし、最悪の場合は連鎖的な自殺まで引き起こしかねない。

自殺のキーワードは、誰もわかってくれない、という「孤立感」。そうならないよう信頼のおける人物に素直に心情を吐露して重荷をおろすことが肝要。聞く方もまきこまれることなく中立で真摯な対応を心がけ、「あなたの周りには、あなたを大切に思う人がある。」という絆を気づかせることが一番。

(関連図書 P4)



パネルディスカッション
「生きる」を支える
 ～自死遺族・自殺未遂者を
 地域で支えるために～



高知赤十字病院救命救急
センター長兼救急部部长

西山 謹吾氏

自殺は社会が生み出した「困窮死」である、とも聞く。心肺停止で救命センターに運び込まれ蘇生に成功すれば精神科医につないでいるが、「困窮死」を招く社会的な要因は、社会的なシステムがないと取り除かれないのではないか。

蘇生できないとき、家族はなぜそのことが起こったか受け容れることができないまま、死後2時間くらいで病院から亡骸と帰って行く。救命センターの窓口で「自死遺族の会」などのパンフレットを手渡すなどして、遺された人の「生きる」を支える取り組みが必要。(自死遺族の会については P4)



全日本断酒連盟参与

小林哲夫氏

アルコール依存症の人の経験に、自殺念慮は55.3%、自殺企図は30.5%あるという。50年前「飲み続ければ死ぬ」と自殺を予防するために断酒会を組織し、集まって体験談を発表し相談を受け、苦しん

でいる人が孤立しないよう努力を重ねてきた。酒をやめても解決できない親子孫の世代間連鎖の問題、アダルトチルドレンの問題もあり、いっそう広範囲な活動が必要。(関連ホームページ P4)



高知うろこの会
(サラ金被害者の会)事務局長

塩冶 一彦氏

生活困窮者に生きる道を確保する指導援助の活動を行ってきた。弁護士・司法書士・窓口相談などでの確な情報を得て相談者に提供する。およそ県内で相談できる機関はほとんど訪ねたつもりだったが、今日の会に参加してまだまだいろいろな援助の道があることを知った。当座の問題を解決してもその後をどうするかが焦点になってくる。生活のしづらさに社会全体が関心を持って、社会構造が変化していくことを期待している。



高知県臨床心理士会会長

杉本 園子氏

医療機関での臨床やスクールカウンセラーの経験から、人を生かしているのは、「あなたは人から大切に思われていて、生きる価値がある」「あなたはその人たちと孤立せずつながっている」という実感であり、それをもてるエンパワーメントが必要。自殺は誰もが身近に出会う可能性があると同時に、自殺を予防することに貢献できる可能性はもっとあるはず。

一人で悩まない



相談電話

088-824-6300

高知いのちの電話協会

毎日9時から21時まで(年末年始のぞく)

事務局 〒780-0051 高知市愛宕町2丁目4-11
TEL088-824-5002 FAX088-824-0036
E-mail kochi-inochi@shirt.ocn.ne.jp
H・P <http://www4.ocn.ne.jp/~k-inochi/>

「自死遺族の集い」のご案内

大切な家族を自死で亡くされた皆さまへ

自死により家族を亡くされた方々が、安心してお気持ち語りあひ、共に過ごすことが出来る場所として、自死遺族の集いを開催します。

対象者：自死によりご家族を亡くされた方
日時：毎月 第3木曜日 午後2時～4時
場所：高知県立精神保健福祉センター 第一会議室
高知市丸ノ内2-4-1 TEL088-821-4966
お問い合わせ先 高知県健康福祉部障害保健福祉課
TEL088-823-9669
高知県立精神保健福祉センター
TEL088-821-4966

参考文献

1. 自殺で遺された人たち(サバイバー)のサポートガイド

苦しみを分かち合う癒やしの方法

アン・スモーリン、ジョン・ガイナン著

高橋 祥友監修 柳沢 圭子訳

明石書店

ISBN 4-7503-2610-0



2. 自殺って言えなかった。

編者：自死遺児編集委員会・あしなが育英会

サンマーク出版

ISBN 978-4-7631-9479-4 C0095

参考ホームページ

全日本断酒連盟ホームページ「自殺の陰に依存症あり」

<http://www.dansyu-renmei.or.jp/index.html>

高知県立療育福祉センター

発達支援部の活動と セミナーのご案内

高知県立療育福祉センター発達支援部では、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等発達障害のあるご本人やご家族が、安心して地域で暮らすことのできるよう次の5つの事業を実施しています。

○相談支援

発達障害のあるご本人(その不安のある方を含む)やそのご家族、こうした方々を支援する関係機関等から様々な相談をお受けしています。

○発達支援

心理判定員が、個別の支援計画を作成し、療育活動を行います。

また、「SST(学齢別、障害別にグループを設定)」や「ぴあとーく、ぴあくらぶ(診断直後の保護者に対し、主に障害受容のサポートを行う交流会)」、「すっぴんとーく会(保護者の不安解消を図るための学習、意見交換会)」等を実施しています。

○就労支援

本人の社会参加の意向や体調、ソーシャルスキルを確認しながら、関係機関と連携して就労に向けた支援を行います。

○普及啓発と研修

発達障害に関する正しい理解を普及・啓発するため、各種セミナーを開催するとともに、支援者に対し効果的な支援方法、実践事例を広めるためのセミナーを開催しています。

○児童デイサービス

自閉症スペクトラムのある就学前児童を対象に、TEACCHプログラムのアイデアを活かしたサービスを提供しています。

親子通園を基本とし、保護者との共通理解を深めながら、個々の特性に応じた療育、相談を実施しています。

発達障害のある方、そのご家族が安心して生活するためには、地域の方々の理解・支援が不可欠です。

当センターにおきましては普及・啓発事業の一環として①発達障害に関する地域啓発セミナー、②視覚支援と構造化に関するセミナー、③2 days トレーニングセミナー（自閉症支援の関係者対象）、④実践報告会を開催しています。また、他機関（保育所、学校等）からの要請に基づき、講師の派遣等を行っています。

これら、発達支援部のスタッフが講師を務めるセミナー以外に、県外の著名な講師を招聘して、発達障害啓発セミナーを開催しています。

今年度は、9月6日(土)に第1回目を開催しました。

当日は、宇都宮大学教育学部教授の梅永 雄二先生に「成人期の自立した生活に向けて？学齢期からの支援のあり方、その実践事例について？」と題して、自閉症スペクトラム、学習障害、注意欠陥多動性障害に関する障害特性、幼少期、学齢期から成人期にいたる各ライフステージ毎に発生する課題等について具体的な事例を交え講演していただきました。

来年3月14日(土)には、本年度第2回目の発達障害啓発セミナーとして、つばさ発達クリニック院長の藤岡 宏先生をお招きして、「自閉症スペクトラムの方への支援について(仮)」を講演していただく予定です。後日、正式なご案内をさせていただきますが、大勢の方の参加をお待ちしています。

また、高知発達障害研究プロジェクトの主催により、ノースカロライナ大学医学部精神科教授、TEACCH部部長のゲーリー・メジボフ先生をお招きして、「自閉症の特性理解」に関してセミナーを開

催します。先生は、国際的に自閉症の療育に関して指導的な立場にある方です。



ゲーリー・メジボフ先生

10月31日(金)午後1時から県民文化ホール(オレンジ)で開催しますので、是非、多くの方のご参加をお待ちしています。

これらの研修に関するお問い合わせ、お申し込みは、療育福祉センター発達支援部までご連絡をお願いします。

最後に、療育福祉センター発達支援部では、今後とも、地域の支援者育成、関係機関との連携に努めるとともに、障害の早期発見、早期療育にも取り組んでいくこととしていますので、ご意見、アドバイス等いただきますようよろしくお願いいたします。

からだ・くらし・すこやかに

 大日本住友製薬

www.ds-pharma.co.jp

「学校は、いま。」

第48回 高知県精神保健福祉大会

入場無料



第48回 高知県精神保健福祉大会 「学校は、いま。」

プログラム

PM 1:00 開会あいさつ 会長 井上 新平
来賓祝辞 高知県知事 尾崎 正直
高知市長 岡崎 誠也
高知県医師会会長 永野健五郎

PM 1:20 表彰式

PM 1:35 アトラクション 藤戸病院デイケア コーラスグループ
「HAZAMACER'S (ハザマッカーズ)」

PM 1:50 講演 「学校は、いま。」

講師 関西国際大学人間科学部教授 清水 将之

PM 3:00

休憩

PM 3:10 シンポジウム

シンポジスト 「学校を元気にするために私達は何ができるか」

前高知県教育長 大崎 博澄

「スクールカウンセラーとして学校現場に出向いて」

高知県臨床心理士会事務局長 池 雅之

「精神科医と前教育委員の目からみて」

高知大学保健管理センター医学部室准教授 澁谷 恵子

●助言者 関西国際大学人間科学部教授 清水 将之

●座長 高知立精神保健福祉センター所長 山崎 正雄

PM 4:25 閉会あいさつ

高知県精神保健福祉協会副会長 幡手 静幸

[主催] 高知県精神保健福祉協会

[事務局] 高知県精神保健福祉協会 高知市丸ノ内1-2-20

高知県健康福祉部障害保健福祉課内 TEL 088(823)9669

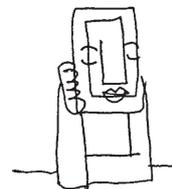
[後援] 高知県・高知県教育委員会・高知市・高知市教育委員会・高知県市長会・高知県町村会・高知県医師会・(社)高知県社会福祉協議会・(社)高知県理学療法士会・高知県作業療法士会・高知臨床心理協会・高知県臨床心理士会・日本精神保健福祉士協会 高知県支部・高知県精神障害者家族会連合会・(社)高知県看護協会・日本精神科看護技術協会 高知県支部・高知県精神科病院協会・高知県精神神経科診療所協会・(独)労働者健康福祉機構高知産業保健推進センター・青少年育成高知県民会議・高知県小中学校PTA連合会・高知県高等学校PTA連合会・高知県民生委員児童委員協議会連合会・高知いのちの電話協会・NHK高知放送局・高知新聞社・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・高知ケーブルテレビ・エフエム高知



「医薬を通じて、
人々の健康と幸福に
貢献したい。」
これが吉富薬品の願いです。

吉富薬品株式会社

たとえば、
ナイチンゲールだったら
どうするだろう、
と考える。



彼女の直筆の文字を使った
このマークを見るたびに、いつも、
自分たちに関心かけています。



ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ
<http://www.eisai.co.jp>